

教科名

音楽

	学力調査・体力調査・定期考査等の分析	指導方法の課題	授業革新に向けての具体的な手立て
7 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査に関しては、「思考・判断・表現」を問う問題に対し、抵抗感を感じている生徒が多数いる。また、学習の方法が確立されておらず、結果として十分理解できていない。</li> <li>・授業では、自分が感じ取った音楽の情景や雰囲気と言葉で説明したり文章にしたりすることが難しいと感じる生徒がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のねらいは、何を学ぶのか、どんなことをできるようにするのかを明確にする。また、それに合わせた振り返りを丁寧に行う。</li> <li>・理解できていないものをそのままにせず、理解しようと探究する姿勢を身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記録カードを毎時間使用し、本時のねらい、振り返り、次回の目標や自身の課題を明確にする。学んだことや新たに知ったことをキーワードとして自分の言葉で詳しく書かせることで、毎時間習ったことを整理させる。</li> <li>・協働的な学習の場を設定し、互いに学び合う時間をもつことで、全体の学習意欲の向上と音楽技術の成長を目指す。</li> </ul>
8 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査に関しては、「思考・判断・表現」を問う問題に対し、感覚では分かるものの、自分の言葉で表現することに課題がある。対策をした上で定期考査に臨んでいる生徒とそうでない生徒で二極化している。</li> <li>・授業では、自分が感じ取った音楽の情景や雰囲気、表現方法等を言葉で説明し文章にすることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音や音楽から感じ取ったものの特徴を捉える際の語彙力の希薄さが伺えるため、おさえるべき形式やキーワード、具体的な表現方法を想像する力を養う。</li> <li>・楽譜や歌詞、歴史的背景など、様々な情報から音楽を根拠をもって読み解く際の想像力を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音や音楽から感じ取ったものをアウトプットする際に、個人からグループへ共有するだけでなく、友人からのアドバイスを基に、更に改善する時間を設ける。</li> <li>・楽譜や歌詞、歴史的背景など、様々な情報から音楽を根拠をもって読み解き、表現を深め、創意工夫する時間の充実を図る。</li> </ul>
9 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査に関しては、対策をした上で定期考査に臨んでいる生徒とそうでない生徒で二極化している。</li> <li>・授業では、自分が感じ取った音楽の情景や雰囲気、表現方法等を言葉で説明し文章にすることに課題がある。また、今まで学習してきた音楽の形式や歴史的な背景を他の音楽に関連させることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要なポイントを繰り返し伝え、アウトプットする作業を重点的に行う。</li> <li>・音楽的な歴史や音楽の形式を絡めながら音楽を聴く学習において、言葉で説明し、時代背景や音楽の特徴との関連について考える学習を重点的に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽譜や歌詞、歴史的背景など様々な情報から音楽を根拠をもって読み解き、表現を深め、創意工夫する時間の充実を図る。また、言葉で相手に伝える時間を十分に確保する。</li> </ul>